

HP Operations Orchestration

Windows および Linux オペレーティングシステム 向け

ソフトウェアバージョン: CP14 (9.x)

リリースノート

ドキュメントリリース日: 2014 年 5 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 5 月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe™は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

本製品には、'zlib' (汎用圧縮ライブラリ) のインターフェースが含まれています。'zlib': Copyright © 1995-2002 Jean-loup Gailly and Mark Adler.

AMD、AMD Arrow ロゴはAdvanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Google™ およびGoogle Maps™ は Google Inc.の商標です。

Intel®、Itanium®、Pentium®、およびIntel® Xeon®は、Intel Coporationの米国およびその他の国の登録商標です。

Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®、Windows®, Windows NT®, Windows® XP, およびWindows Vista® は、Microsoft Corporationの米国登録商標です。

Oracleは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

UNIX® は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品 サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

目次	4
概要	5
新機能	6
サポートされているバージョン	6
新しい機能	6
OO Content Pack 14 のドキュメント	7
OO Content Pack 14 のインストール	8
手動での OO Content Pack 14 のインストール	8
ローカル Central Server への OO Content Pack 14 のインストール	8
Windows	8
Linux	10
リモート Central Server への OO Content Pack 14 のインストール	12
Windows	12
Linux	13
OO Content Pack 14 のアンインストール	14
コンテンツパックフォルダーのバックアップ	14
インストールのロールバック	14
既知の問題	15
修正された不具合	20

概要

本ドキュメントでは、HP Operations Orchestration Content Pack 14 で行われた変更の概要について説明します。マニュアルやオンラインヘルプに記載されていない重要な情報が含まれています。

これは英語版と日本語版のリリースです。

OO Content Pack 14 は累積的なコンテンツパックであり、リポジトリとRAS が更新されます。この更新でオペレーションやフローが削除されることはありません。パッチで行われるのは、特定のコンテンツの場所の追加、修正、変更だけです。

新機能

サポートされているバージョン

- HP Application Lifecycle Management (ALM) 統合バージョン 12.00 のサポートが追加されました。
- HP Arcsight 統合バージョン 6.5c のサポートが追加されました。
- HP Fortify 統合バージョン 3.90 のサポートが追加されました。
- HP Load Runner (LR) 統合バージョン 12.00 のサポートが追加されました。
- HP Onboard Administrator 統合バージョン 4.x のサポートが追加されました。
- HP Operations Manager i 統合バージョン 9.23 および 9.24 のサポートが追加されました。
- Microsoft Hyper-V 2012 統合のサポートが追加されました。
- Microsoft Hyper-V 2012 R2 統合のサポートが追加されました。
- Microsoft SQL Server 2014 通貨統合のサポートが追加されました。
- MS SC 2012 統合バージョン R2、SP1 および SP2 のサポートが追加されました。
- HP Continuous Delivery Automation (CDA) 統合バージョン 1.30 のサポートが追加されました。
- Microsoft Active Directory 2012 のサポートが追加されました。
- Microsoft Active Directory 2012 R2 のサポートが追加されました。
- SiteScope 統合バージョン 11.23、11.24、11.30 のサポートが追加されました。
- VMware vCenter Orchestrator バージョン 5.1 および 5.5 のサポートが追加されました。
- VMware vCloud Director バージョン 5.5 のサポートが追加されました。
- Windows 2012 バージョン R2 のサポートが追加されました。

新しい機能

- 「ライブラリ/オペレーション/データベース/Microsoft SQL」にあるオペレーション「SQL クエリ」が拡張され、新しいブール値入力 **MultipleActiveResultSets** が追加されました。これは MS SQL の接続文字列を設定する役割を果たします。
- 「LDAP」および「Active Directory」フォルダーのオペレーションに SSL のサポートが追加されました。Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用して LDAP サーバーに接続し、keyStore また

は trustStore 証明書ファイルを使用するか、すべての証明書を信頼して弱いセキュリティを有効にすることもできます (**trustAllRoots = true** の場合)。

00 Content Pack 14 のドキュメント

OO Content Pack 14 のドキュメントセットには、次のドキュメントが含まれます。

- HP Application Lifecycle Management Integration Guide
- HP Arcsight Integration Guide
- HP Fortify Integration Guide
- HP Load Runner Integration Guide
- HP Onboard Administrator Integration Guide
- HP Operations Manager i Integration Guide
- HP SiteScope Integration Guide
- Microsoft SCCM Integration Guide
- Microsoft SCO Integration Guide
- Microsoft SCOM Integration Guide
- Microsoft SCVMM Integration Guide
- VMware vCloud Director Integration Guide
- VMware vCenter Orchestrator Integration Guide
- HP Operations Orchestration Integration Support Matrix
- HP Operations Orchestration Operations and Flows

OO Content Pack 14 のインストール

OO Content Pack 14 は、既存の OO プラットフォームバージョン 9.00.01 またはそれ以降にインストールすることを推奨します。

OO Content Pack 14 は、既存の Content Pack 13 コンテンツインストール上にインストールできます。プラットフォーム 9.00 と、次の表に記されているパッチを使用してください。

コンテンツ	パッチレベル
OO Content Pack 14	9.00.01
OO Content Pack 14	9.05.0001
OO Content Pack 14	9.07
OO Content Pack 14	9.07.0005
OO Content Pack 14	9.07.0006

コンテンツパックを適用する前に、すべてのコンテンツをチェックインする必要があります。

既存の OO 9.00 バージョンの上から OO Content Pack 14 をインストールした後で、OO 9.00 を再インストールした場合は、OO Content Pack 14 も再インストールする必要があります。

手動での OO Content Pack 14 のインストール

OO Content Pack 14 をインストールするには、Java 6 を使用する必要があります。OO に付属する Java JRE (<OO_HOME>/jre1.6 フォルダ) を使用することをお勧めします。

OO Content Pack 14 を手動でインストールする場合、次のことができます。

- [ローカル Central Server にインストールする](#)
- [リモート Central Server にインストールする](#)

ローカル Central Server への OO Content Pack 14 のインストール

Windows

1. Studio を終了し、Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。

3. 左側の **[Operations Orchestration Content Packs]** をクリックします。 **[Operations Orchestration Content Packs]** ボックスで、 **[Content]** をクリックします。 **[HP Operations Orchestration 9.00]** をクリックし、 [HP Operations Orchestration Content Pack 14] に移動します。
4. OO Content Pack 14 のインストーラー **OO_Content_Pack_14_Installer.jar** を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. **[スタート]** メニューをクリックし、 **[ファイル名を指定して実行]** をクリックします。
6. **[ファイル名を指定して実行]** ダイアログボックスで、「cmd」と入力して **[OK]** をクリックします。
7. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。
コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

8. OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。
 - Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで OO Content Pack 14 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
 - a. **[スタート]** メニューから、 **[すべてのプログラム]**、 **[アクセサリ]** の順に選択します。
 - b. **[コマンド プロンプト]** を右クリックし、 **[管理者として実行]** オプションを選択します。
 - Central のユーザー名にデフォルトの admin 以外を使用している場合は、上記手順の **ステップ 7** のコマンドで、 **-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで OO Content Pack 14 をインストールする場合は、上記手順の **ステップ 7** で、 **-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -locale ja
```

- オペレーションのバージョン間に競合があっても OO Content Pack 14 をインストールする場合は、上記手順のステップ 7 のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -forceInstall -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword -locale ja
```

Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。これには、RSCentral と RSJRAS の各サービスのステータスを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、**[Operations Orchestration Community]** をクリックしてログインします。
3. 左側の **[Operations Orchestration Content Packs]** をクリックします。**[Operations Orchestration Content Packs]** ボックスで、**[Content]** をクリックします。**[HP Operations Orchestration 9.00]** をクリックし、[HP Operations Orchestration Content Pack 14] に移動します。
4. OO Content Pack 14 のインストーラー **OO_Content_Pack_14_Installer.jar** を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. **ターミナル**を開きます。
6. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

7. OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

注:

- Central のユーザー名にデフォルトの admin 以外を使用している場合は、上記手順のステップ 6 のコマンドで、**-centralUsername** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralUsername <デフォルト以外の Central のユーザー名> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralUsername sysadmin -centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME -locale ja
```

- デフォルトポートの **https://localhost:8443** 以外のポートで OO Content Pack 14 をインストールする場合は、上記手順のステップ 6 で、**-centralURL** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralURL <デフォルト以外の Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralURL https://central_server1:8080 -centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME -locale ja
```

- オペレーションのバージョンの間に競合があっても OO Content Pack 14 をインストールする場合は、上記手順のステップ 6 のコマンドで、**-forceInstall** パラメーターを使用して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -forceInstall -centralPassword<Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

たとえば、次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -forceInstall -centralPassword mypassword -home /root/OO_HOME -locale ja
```

リモート Central Server への OO Content Pack 14 のインストール

ローカルにインストールされた Central が必要です。

Windows

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、[Operations Orchestration Community] をクリックしてログインします。
3. 左側の [Operations Orchestration Content Packs] をクリックします。[Operations Orchestration Content Packs] ボックスで、[Content] をクリックします。[HP Operations Orchestration 9.00] をクリックし、[HP Operations Orchestration Content Pack 14] に移動します。
4. OO Content Pack 14 のインストーラー `OO_Content_Pack_14_Installer.jar` を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. [スタート] メニューをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
6. [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスで、「cmd」と入力して [OK] をクリックします。
7. JVM ディレクトリ内の bin サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。コマンドウィンドウで、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -locale ja
```

8. リモート OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

注:

- Windows 2008 および Windows 2008 R2 サーバーで OO Content Pack 14 をインストールする際は、管理者権限が必要となります。管理者権限は以下の手順で取得できます。
 - a. [スタート] メニューから、[すべてのプログラム]、[アクセサリ] の順に選択します。
 - b. [コマンド プロンプト] を右クリックし、[管理者として実行] オプションを選択します。

Linux

1. Central と RAS が稼働していることを確認します。
2. <https://hpln.hp.com> にアクセスし、**[Operations Orchestration Community]** をクリックしてログインします。
3. 左側の **[Operations Orchestration Content Packs]** をクリックします。**[Operations Orchestration Content Packs]** ボックスで、**[Content]** をクリックします。**[HP Operations Orchestration 9.00]** をクリックし、[HP Operations Orchestration 14] に移動します。
4. OO Content Pack 14 のインストーラー **OO_Content_Pack_14_Installer.jar** を探し、一時ディレクトリにコピーします。
5. **ターミナル**を開きます。
6. **JVM** ディレクトリ内の **bin** サブディレクトリが PATH 環境変数に追加されていることを確認します。**cd** コマンドを使用して、カレントディレクトリを一時ディレクトリに変更して次のように入力します。

```
java -jar OO_Content_Pack_14_Installer.jar -centralURL <リモート Central の URL> -centralPassword <Central のパスワード> -home <OO のインストール先フォルダーのパス> -locale ja
```

7. リモート OO デプロイメント環境内にあるすべての RAS 上で RAS サービスを再起動します。

OO Content Pack 14 のアンインストール

OO には、インストールしたコンテンツパックをアンインストールするオプションが用意されていません。これは設計上の制限であり、Operations Orchestration バージョン 10 では解決されています。

インストールしたコンテンツパックをロールバックする唯一の方法は、コンテンツパックをインストールする前にバックアップを作成しておき、そのバックアップから OO のフォルダー構造を復元することです。

コンテンツパックフォルダーのバックアップ

復元ポイントとして使用するバックアップを作成するには、次の手順を実行します。

1. <OO_INSTALLATION_DIR>\Central\rcrepo フォルダーをバックアップします。
2. <OO_INSTALLATION_DIR>\RAS\Java\Default\repository フォルダーをバックアップします。
3. RSCentral および RSJRAS サービスを停止します。

インストールのロールバック

コンテンツパックをインストールした後で、インストールをロールバックする必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. コンテンツパックのインストール後に変更または作成したフロー (存在する場合) をリポジトリにエクスポートします。リポジトリのインポートの詳細については、『Studio オーサリングガイド』の「リポジトリのインポート」を参照してください。
2. Central および RAS サービスを停止します。
3. 「[コンテンツパックフォルダーのバックアップ](#)」(14ページ) のステップ 1 と 2 で作成したバックアップ場所からファイルを復元します。
4. サービスを再起動します。
5. ステップ 1 で作成したリポジトリをインポートします。

注: リポジトリをインポートした後で、復元したフローのうち、アンインストールしたコンテンツパックのオペレーションを使用して作成されたものが無効と表示されることがあります。これは、コンテンツパックが初期設定の OO オペレーションを更新して、新しい入力やレスポンスを追加しているためです。ステップ 3 で Central リポジトリを復元するときに、これらの入力は失われます。

既知の問題

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D85010	F5 統合	F5 統合では、英数字以外のパスワードはサポートされません。これは、パスワードがHTML GET 文字列内に配置されるためです。英数字以外の文字を使用するとGET 文字列が無効になるため、英数字以外の文字はパスワードに使用できません。
QCCR8C10653	HTTP クライアントが接続を再利用しないため、パフォーマンスボトルネックが発生する	各 OO RAS オペレーションは、次の点を考慮して1つのユニットとして設計されています。 <ul style="list-style-type: none"> • 実行時にすべてのリソースが取得される • オペレーションの完了時に、取得されたリソースは解放される ただし、何千ものステップに対してフローが同じオペレーションを順次使用する場合、RAS オペレーションは、各ステップで必要なリソースを再利用せずに再作成します。
QCCR1D121391	Central が到達不能なプロキシの背後にある場合、RSflowinvoke が自動的に再試行する	JRSflowinvoke と RSFlowinvoke は同じプロキシ情報を使用します。RC=0 の場合、この動作が繰り返されることはなく、502/503 メッセージで失敗を返します。
QCCR1D131214	「割り当て先の更新」オペレーション	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Network Node Manager/9.0/インシデント/割り当て先の更新」オペレーションが、例外 Cannot interrogate model を生成して失敗します。本来は、オペレーションは success を返し、assignTo の値は入力値として指定された値に変更されるはずですが。
QCCR1D132829	「Get」および「Put」オペレーション	「ライブラリオペレーション/リモートファイル転送/FTP/Get」および「ライブラリオペレーション/リモートファイル転送/FTP/Put」オペレーションは、type 入力に無効な値を指定しても正常に完了します。
QCCR1D135408	「割り算」オペレーション	「ライブラリユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子/割り算」オペレーションは、0 による除算が発生しても成功し、結果は無限大になります。オペレーションが修正され、除数が0かどうかを確認するようになりました。除数が0の場合、オペレーションは失敗します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D135409	「割り算」オペレーション	「ライブラリユーティリティオペレーション/数値演算および比較/簡易評価子/割り算」オペレーションを使用して 0.0 を 0.0 で割ると、オペレーションは BigInteger divide by 0 というメッセージを出して失敗します。
QCCR1D138276	RepositorySync プラグインの includePaths の説明	Library/統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/リポジトリフォルダーの RepositorySync プラグインの includePaths (含めるパス)に関する説明は、もっとわかりやすくする必要があります。includePaths は、実際には OS のシステムストレージパスではなく、リポジトリのルートからの論理的オフセットを表しているためです。たとえば、My Ops Flows の下にあるすべてのフローを含めるには、入力は Library/My Ops Flows とする必要があります。excludePaths (除外するパス)についても、これと同じ説明を適用する必要があります。
QCCR1D138282	「システムアカウントの設定」および「システムプロパティの設定」オペレーション	新しいシステムアカウントを作成してチェックインした場合に、システムアカウントのユーザー名とパスワードの値が空であると、どのフローでもこれらの値を使用できません。このため、「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/システムアカウントの設定」オペレーションを使用することで、OO フローを実行してシステムアカウント値をリアルタイムで作成することはできません。「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/システムプロパティの設定」オペレーションに関しても、同じ動作が見つかっています。
QCCR1D138299	「Base64 デコーダー」オペレーション	「ライブラリユーティリティオペレーション/Base64 デコーダー」オペレーションは、data 入力の値に無効な非 ASCII 文字列が含まれていても、characterSet 入力の値が ASCII または shift-JIS の場合は success を返します。本来ならオペレーションは失敗するはずですが。
QCCR8C14857	OO でフローをスケジュールするオペレーションで説明フィールドが設定されない	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/スケジュールリング/フローのスケジュール」で説明を持つフローをスケジュールした後、「フロースケジュールの取得」を実行してデータを取得し、「スケジュール詳細情報の取得」を使用すると、説明が空白です。
QCCR8C16166	「オペレーティングシステム検出」の ReturnResult の末尾に表示できない文字がある	「オペレーティングシステム検出」オペレーションの ReturnResult の末尾に表示できない文字があります。返された値を、「文字列の比較」オペレーションに、一致の種類を正規表現、パターンを ".*" にして渡すと、不一致エラーが発生します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C17645	L10N:iLO3: 名前に日本語文字を含むユーザーを作成できない	「ユーザーの作成」フローを実行して日本語文字を含むユーザー名を作成しようとすると、オペレーションは失敗し、フローは作成されません。
QCCR1D145676	「フローのスケジュール」オペレーション	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フローのスケジュール」オペレーションは、OO 9.03 に対してローカルリポジトリから実行すると失敗します。これは、スケジューラーとCentralの統合時にOO 9.03で行われた変更によるものです。
QCCR1D145994	OO サンプルのセルフ統合	説明に記載されているように、「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フローの実行/サンプル/フロー実行のステータスによるフィルター」フローと「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/フローの実行/サンプル/前回の実行ステータスの取得」フローは、Centralからのみ実行できます。Studioからは実行できません。ただし、Centralではフォルダーの場所(ライブラリ統合など)が表示されません。 フローを実行するには、コマンドラインツール(JRSFlowInvoke.jarなど)を使用する必要があります。あるいは、これらのフローをリポジトリ内の別の場所にコピーすれば、Centralで実行することができます。
QCCR1D149698	「テンプレートの再デプロイ」オペレーション	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/SiteScope/9.x および 10.x および 11.00/テンプレートの再デプロイ」オペレーションは、ターゲットパスが無効であると、NullPointerExceptionを生成して失敗します。
QCCR1D150316	「アプリケーションバージョンの取得」および「アプリケーションの取得」オペレーション	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/アプリケーションバージョンの取得」オペレーションは、applicationId入力を空のままにしておくと、NullPointerExceptionを生成して失敗します。 「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/アプリケーション/アプリケーションの取得」オペレーションは、filterByにbyApplicationIdを割り当て、valueに不具合説明の値を割り当てると、NullPointerExceptionを生成して失敗します。
QCCR1D150709	「テストの読み取り」フロー	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Application Lifecycle Management/テスト計画/テストの読み取り」フローは、useLabelsがtrueに設定されている場合とfalseに設定されている場合とで異なる結果を返します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D154222	「Ant スクリプト」フロー	「ライブラリ/オペレーション/Ant/Ant スクリプト」フローの timeout 入力値は、結果を返す場合に考慮されません。
QCCR1D155726	「トポロジの実現されたプラットフォームへの配布のトリガー」オペレーション	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ/トポロジの実現されたプラットフォームへの配布のトリガー」オペレーションは、deploymentName と deploymentSetId の各入力に無効な値を指定しても成功しますが、展開は CDA 側の NullPointerException で失敗します。
QCCR1D155731	「実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーション	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/Continuous Delivery Automation/トポロジ/実現されたトポロジのビルドの検索」オペレーションは、realizedTopologyId 入力に間違った値が指定されると、失敗するのではなく、結果を返さずに成功します。
QCCR1D155796	「コネクタのリスト」フロー	「ライブラリ統合/Hewlett-Packard/ArcSight/サンプル/コネクタのリスト」サンプルフローは、シナリオがネガティブな場合にエラーメッセージを返しませんが。
QCCR1D156392	Windows のエラーメッセージ	ユーザー名とパスワードの入力が正しくない場合、「ライブラリ/オペレーション/ファイルシステム/Windows のみ」フォルダのオペレーションと、「ライブラリ/オペレーション/オペレーティングシステム/Windows/Ping」および「経路探索」オペレーションは、Windows 2012 と Windows 2008 R2 とで異なるエラーメッセージを表示します。
QCCR1D157920	「ホストからのデータストアの削除」オペレーション	dataStore 入力に無効な値を指定して実行すると、「ライブラリ/統合/VMware/VMware 仮想インフラストラクチャおよび vSphere/ホスト/ストレージ/ホストからのデータストアの削除」オペレーションは、vSphere 5.1 以前に対して使用された場合とは異なるメッセージを返します。
QCCR1D159032	SCVMM のエラーメッセージ	owner 入力に無効な値を指定して実行すると、「ライブラリ/統合/Microsoft/System Center Virtual Machine Manager/仮想マシン/仮想マシンの設定」、「ライブラリ/統合/Microsoft/System Center Virtual Machine Manager/ハードウェアプロファイル/新しいハードウェアプロファイル」、「ハードウェアプロファイルの設定」の各フローは、SCVMM 2012 では SCVMM 2008 R2 とは異なるエラーメッセージを返します。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C21646	「既存のディスクを VM に追加」、「新しいディスクを VM に追加」の各オペレーションが正しく動作しない	次のオペレーションを実行する場合、8 つ以上のディスクを持つ仮想サーバーにアタッチしようとすると、エラーが発生します: /ライブラリ/統合 /VMware/VMware Virtual Infrastructure vSphere/仮想マシン/構成/新しいディスクを VM に追加 /ライブラリ/統合 /VMware/VMware Virtual Infrastructure vSphere/仮想マシン/構成/既存のディスクを VM に追加
QCCR8C21954	OpenStack: 「サーバーの再構築」フローが 10x で失敗する	メタデータ入力 (必須ではない) が指定されているかどうかに関わらず、フローは「メタデータの追加」ステップで次のエラーメッセージを出力して失敗します。 SyntaxError: Unexpected token in object literal
QCCR8C22983	OO 9.x CP13 のインストールコマンドを日本語版 OO で使用すると、アラートメッセージが表示される	CP13 を日本語版 OO に適用すると、2 種類のメッセージが表示されます。 Cannot find object in repo for UUID:<xxxx> java.lang.RuntimeException: Unexpected NULL object while processing the line <nnnnn> これらのメッセージは無視できます。
QCCR8C23806	[I18N]: 「クロスプラットフォーム」の「ファイルからの読み込み」は、ファイルに日本語文字が含まれていると動作しない	「ファイルからの読み込み」オペレーションは returnCode=1;Result=1;count=0 を返し、無限ループに入ります。

修正された不具合

次の項目は、現在のソフトウェアリリースで修正済みです。修正された不具合の参照番号は、QCCR (Quality Center Change Request) ID です。

修正された不具合の詳細については、「HP ソフトウェアサポートオンライン」を参照するか、HP サポート担当者まで直接お問い合わせください。

CR 番号	タイトル	説明
QCCR8C18921	テンプレートからの VM のデプロイのドキュメントがない	9.00.07 コンテンツパックで追加された、テンプレートからの VM のデプロイのドキュメントが、統合ガイドにもパッチノートにもありません。
QCCR8C5259	Excel オペレーション「セルの変更」を変更することで、行と列の区切り文字を別の文字に定義できるようにするか、非推奨のオペレーション「Excel データの変更」を修正して Content Pack 7 で動作するようにする	<p>「ライブラリ/オペレーション/ファイルシステム/Windows のみ/Excel」の下にある「セルの変更」オペレーションは、現在のところ値に対する列の区切り文字として","のみを使用できます。</p> <p>このオペレーションは、コンマを含むセルの内容を既存の Excel ファイルに書き込むことができません。</p> <p>非推奨の Excel オペレーションは、列と行の区切り文字を指定できますが(例、コンマではなくセミコロン)、非推奨のオペレーション「Excel データの変更」は、CP7 では指定できますが、CP8 では指定できません (CP8 では Excel ファイルの行ごとに 1 文字書き込まれます)。</p>

CR 番号	タイトル	説明
QCCR1D171779	OOTB オペレーション「統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/リポジトリ/システムアカウントの設定」を使用し、入力を createNewAccount=True に設定すると、システムアカウントは作成されるが、ユーザー名とパスワードが空白のままになる	OOTB オペレーション「統合/Hewlett-Packard/Operations Orchestration/リポジトリ/システムアカウントの設定」を使用し、入力を createNewAccount=True に設定して、新しいシステムアカウントを作成すると、システムアカウントは作成されますが、ユーザー名とパスワードは入力されません。システムアカウントが既存のもので、入力が createNewAccount=False でない限り、ユーザー名とパスワードは入力されません。

